

日本フィル「被災地に音楽を」

訪問コンサート レポート 第44号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月からはじまり、2019年2月現在、通算263回となりました。



訪問地 福島県南相馬市

クリニック	10月6日(土)	会場:原町第一中学校
合同リハーサル	10月7日(日)	会場:ゆめはっと
コンサート	10月8日(月祝)13:30 開演	会場:ゆめはっと

訪問メンバー

ヴァイオリン 齋藤政和	コントラバス 菅原光	クラリネット 伊藤寛隆
ファゴット 鈴木一志	トランペット 星野究	トロンボーン 岸良開城
パーカッション 福島喜裕		
語り 巖谷陽次郎	脚本 三枝木宏行	

福島県南相馬市は東日本大震災による津波被害に加え、市内の一部が福島第一原発から20キロ圏内の避難指示区域にあり、大変な困難と不安の時を過ごしてきました。この地域で活躍する名指導者・阿部夫妻の尽力によって全国レベルまで育て上げられた原町第一中学校(以下、原一中)吹奏楽部の活動も、原発事故により一時的に中断を余儀なくされ、部活に所属する生徒数も激減してしまいました。

吹奏楽部に残った生徒たちと先生の音楽へのひたむきな思いを受けて、日本フィルは毎年楽器指導を通じた支援を行ってきました。さらに、彼らの素晴らしい音楽を多くの人に聴いてもらうべく、杉並公会堂を中心に毎年開催されている「荻窪音楽祭」への招へいを行い、交流自治体である杉並区と南相馬市に音楽の橋をかけてきました。震災から時間が経過し、吹奏楽部の人数も少しずつ戻り、活動にも活気が戻ってきました。これまで陰ながら応援してきた原一中とともに、地域全体をもっと元気にしたい。そんな思いから今年は、毎年10月に同校が市内のホール「ゆめはっと」で開催しているコンサートに日本フィルが出演し、ステージを共にすることになりました。

10月6日(金)楽器クリニック

今回の演奏会で日本フィルと原一中が合同演奏に選んだのはホルスト作曲の組曲「惑星」より「火星」、「木星」。元はオーケストラ曲ですが、優れた吹奏楽部編曲があります。この難曲に取り組む中学生たちに、日本フィルのメンバーが丁寧な指導を行いました。トランペット、トロンボーン、クラリネット、コントラバス、打楽器のメンバーがそれぞれ同属楽器を指導。特にコントラバスは普段なかなか指導を受けることができないそうで、今回は生徒が一人だったためしっかりと個人レッスンの時間を持つことができました。また、フルートおよびサクソフーンは、ヴァイオリンの齋藤政和が指導。楽器の枠にとらわれないオーケストラ奏者ならではの指導により生徒たちの演奏はどんどん変わっていききました。



10月7日(土)合同演奏リハーサル



今回の演奏会で合同演奏を指揮するのは、今年から名指導者・阿部和代先生から指揮棒を受け継いだ、転任初年度の鈴木淳子先生。新しい学校という環境の中で、伝統ある吹奏楽部に対してどう取り組むか試行錯誤の日々で、初年度からこの大きな舞台を任されるのは大変なプレッシャーだったそうです。日本フィルのメンバーたちは合同演奏の練習を通じて、指揮者に対して演奏者が受け身になるだけではなく、違う楽器同士が互いに響きを聴きあい、それぞれの役割を果たしつつお互いを理解していくことが重要であり、指揮者と演奏者の信頼関係も良い演奏に必要なことを伝えました。日本フィルのメンバーからオーケストラ奏者としての経験と思いが詰まったアドバイスを受けて、生徒たちの演奏には一段と熱がこもってきました。



10月8日(日)原町第一中学校吹奏楽部コンサート

～日本フィルハーモニー交響楽団のアンサンブルを迎えて～

ストラヴィンスキー:兵士の物語(抜粋) 語り:巖谷陽次郎 台本:三枝木宏行 ほか

このコンサートは原町第一中学校がホストとなって町内の小中学校が複数出演する一大イベントで、同校がこの地域の吹奏楽で中心的な役割を担っていることがよくわかりました。そして各校の演奏はお世辞抜きで本当にひたむきで美しいものでしたが、それは活動を全力で支持する保護者の皆さんや先生、まさに地域と学校を挙げての献身的な支えあつてのもので、音楽文化が地域に深く根差していることに深い感銘を受けました。

各校の演奏に続き、ストラヴィンスキーが小編成アンサンブルのために作曲した「兵士の物語」を日本フィルが演奏。

語り役を務めた巖谷さんの名演もあつて、会場全体が興奮に包まれました。

写真左: 語りの巖谷陽次郎さん

写真右: 「兵士の物語」を演奏する様子



コンサート中盤、原一中吹奏楽部を牽引してきた名指導者・阿部和代元教諭が、震災後に日本フィルと出会い、今日まで共にしてきた時間を振り返り、ご挨拶されました。南相馬に吹奏楽文化を根付かせてきた先生のご努力と、特に震災後のご苦労は想像するに余りあります。日本フィルがこの素晴らしい指導者と出会い、音楽を通じた復興への取り組みをご一緒できたことは本当に幸せでした。その思いは後任の鈴木先生にしっかりと受け継がれています。その後の合同演奏では鈴木先生の指揮のもと大吹奏楽が荘厳なイギリス音楽を奏で、600名近くのお客様で埋まった会場が大歓声に包まれました。



終演後にはロビーでささやかな交流会、写真撮影。

来年の再会を期して東京へと戻る日本フィルメンバーの乗ったバスを見送って、笑顔溢れる生徒たちがいつまでも、力いっぱい手を振ってくれていました。



写真左: 交流会の様子

写真右: サインに応じる Vn. 齋藤

特別寄稿

原町第一中学校吹奏楽部 顧問 鈴木淳子先生

10月の原町第一中学校吹奏楽部コンサートで、伝統ある日本フィルハーモニー交響楽団の方々と一緒に演奏できるという夢のような話に、始めはただただ驚くばかりでした。しかし、生徒たちは、震災後、毎年、日本フィルの方々との交流があるので、楽器指導にきていただくだけでなく、一緒に舞台上で演奏できることを楽しみに感じているようでした。

しかも、合同演奏曲は、ホルスト作曲の組曲「惑星」。私が吹奏楽を始めた頃は、演奏したい憧れの曲でした。その壮大な組曲を生徒たちと私が、しかも、日本フィルの方々と演奏ができる。楽譜が手元に届くまで、これは現実なのだろうかと思うときもありました。

早速、練習を始めると、簡単にはいきません。生徒たちと練習を重ね、日本フィルの方々とのレッスンの日を迎えました。みなさん、とても気さくな方々ばかりで、始めは緊張していた生徒たちも、音を通してレッスンをしていくうちに、豊かな音の響きが校舎を包み始めました。音をどう扱うのか、どう演奏したら、自分が思い描いた音を出せるのか、実際のプロの方々の音を直に聴いてレッスンを受けるとい、ぜいたくな時間はあっという間に過ぎてしまいました。生徒たちは、レッスン後、疲れなど一切見せず、充実した笑顔で、もっと吹きたい、もっとレッスンを受けた、という思いで溢れていました。レッスンを受けている生徒たちがみるみる変わっていく姿を目の当たりにし、音楽というのはこんなにも人を変える力があるのかと、また、生徒たちがこれだけ変わったのは、日本フィルの方々の音楽に対する熱い思いを感じたからだと思います。とても貴重な時間でした。

そして、原町第一中学校吹奏楽部のコンサートに向けて、リハーサルが行われました。プロの方々の音を間近で聴き、一緒に音を奏でられる豊かな響きに圧倒されました。音楽の方向性や曲のイメージなど具体的なアドバイスをいただきながら、本番に向けての調整が行われました。

本番は、原町区内の小・中学校の吹奏楽部の演奏と日本フィルのアンサンブルも聴くことができました。とても充実したプログラムで、素晴らしい演奏会になりました。日本フィルの皆さんの音楽活動を通じた支援の成果を、演奏会を通して地域の方々に聴いていただき、還元できた時間になったと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、たくさんの方々に聴いていただけるよう、練習に励んでいきたいと思っています。



写真：平舘平